

# 東奥信用金庫

地域内企業の業況レポート  
No. 120  
2023年1～3月期

本レポートは、情報提供のみを目的とした当金庫の意見です。

当金庫が信頼できると考える情報源から得た各種データなどに基づいてこの資料は作成されていますが、この情報の正確性および完全性について当金庫が保証するものではありません。

〒036-8182 弘前市大字土手町81  
TEL 0172-33-8404 業務部 -2023.4.30-  
HP <http://www.shinkin.co.jp/toshin/>

## 《今回調査のポイント》

### ● 1～3月期（今期）業況判断DI値 全項目で悪化

1～3月期の業況判断DI値は、前回調査比15.1ポイント低下の▲23.0と悪化し、前回予想値(▲31.6)を8.6ポイント上回る結果となった。項目別では、売上・受注で22.3ポイント低下の▲16.8、売上数量が21.6ポイント低下の▲18.2、利益では24.0ポイント低下の▲26.1と全項目で悪化となった。新型コロナウイルス感染症の影響が緩和しつつあり、飲食業および「全国旅行支援」の効果もあり宿泊業等回復基調が続いている。例年季節的要因により対前期比悪化の時期であるのに加え、原材料価格の上昇やエネルギー価格高騰が継続していることにより、全業種が収益面で厳しさを増している状況となっている。価格転嫁を可能としている企業と苦戦している企業との格差が出始めている。



業況お天気図

### ● 4～6月期（来期）各項目別DI値 改善を見込む

4～6月期の見通し業況判断DI値は、今回調査比20.6ポイント上昇の▲2.4と改善の予想となった。項目別では、売上・受注で25.0ポイント上昇の8.2、売上数量が27.1ポイント上昇の8.9、利益でも24.4ポイント上昇の▲1.7と全項目で改善を見込む結果となった。



業況予想お天気図



## お天気図



(お天気図は、景気指標を総合的に判断して作成したものです。)

## 全業種総合

回答企業数291企業（回答率100.00%）

## 概況

## ～総合的業況判断DI値 前期比悪化～

総合的業況判断DI値は、前期比15.1ポイント低下の▲23.0と悪化となった。

業種別での業況判断DI値は、不動産業が33.3ポイント上昇の0.0、飲食業が26.3ポイント上昇の▲10.5、運輸業が0.0ポイントの横ばいで30.0の結果となった。一方で、小売業が3.3ポイント低下の▲23.1、サービス業が26.2ポイント低下の▲26.2、製造業が27.3ポイント低下の▲36.4、卸売業31.0ポイント低下の▲31.0、建設業が34.5ポイント低下の▲25.9となり、上昇が2業種、横ばいが1業種、低下が5業種の結果となった。

## ～経営上の問題点～

業種全体で「材料価格の上昇」125先、「売上の低迷・減少」96先、「利幅の縮小」79先、「人員不足」77先、「経費の増加」75先と上位を占めた。

前回調査比、「材料価格の上昇」88先増加、「売上の低迷・減少」が6先減少、「利幅の縮小」は2先増加、「人員不足」12先減少、「経費の増加」17先増加となった。他に、「その他(新型コロナウイルス感染症の影響)」は1先減少の10先となった。

設備投資計画では、「予定あり」とした企業が42先、前期比2先増加、設備投資実施予定割合は14.4%と前期比0.7%増加した。業種別では、不動産業(土地・建物)33.3%、サービス業(土地・建物・機械)21.4%、運輸業(土地・建物)20.0%、製造業(土地・機械)18.2%、建設業(建物・機械・その他)13.8%、卸売業(土地・建物・機械・その他)同率の13.8%の先が「予定あり」としており、小売業・飲食業は10%未満に留まった。

資金繰りDI値は、前回調査比8.6%低下の▲17.2とやや悪化傾向にあり、今期借入した企業は18.6%と前回調査時(24.7%)より6.1%低下となった。

## 来期の見通し

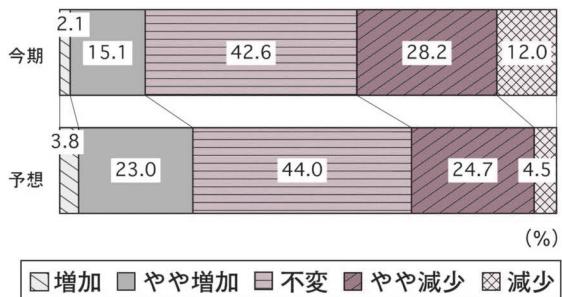
## ～総合的業況判断DI値 改善を予想～

各業種の見通し業況判断DI値は、今回調査比20.6ポイント上昇の▲2.4と改善の予想となった。

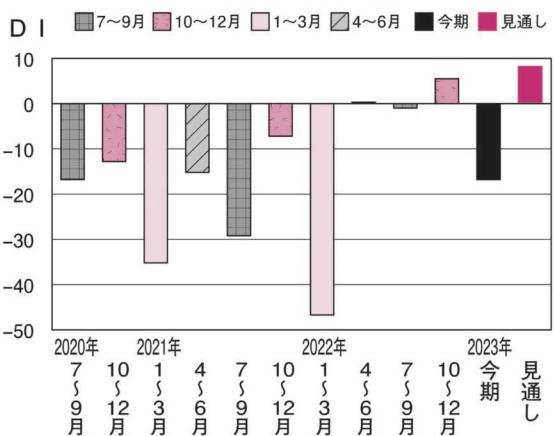
業種別では、製造業が45.5ポイント上昇の9.1、サービス業が35.7ポイント上昇の9.5、不動産業が33.3ポイント上昇の33.3、建設業が29.4ポイント上昇の3.5、卸売業が24.1ポイント上昇の▲6.9、飲食業が21.0ポイント上昇の10.5、小売業が0.0ポイントの横ばいで▲23.1、運輸業10.0ポイント低下の20.0と、来期の見通しは上昇が6業種、横ばいが1業種、低下が1業種となった。

今期資金手当した先が18.6%であったが、今後資金手当等借入を予定している先は19.9%となっている。

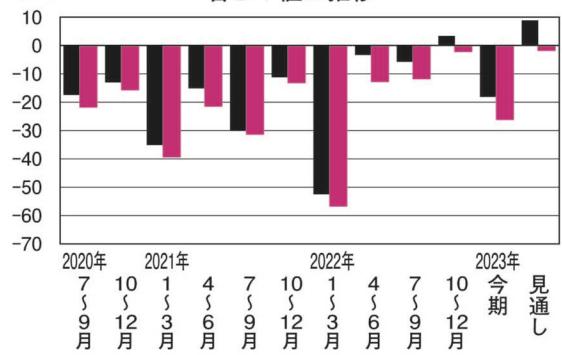
## 業況判断（全業種）



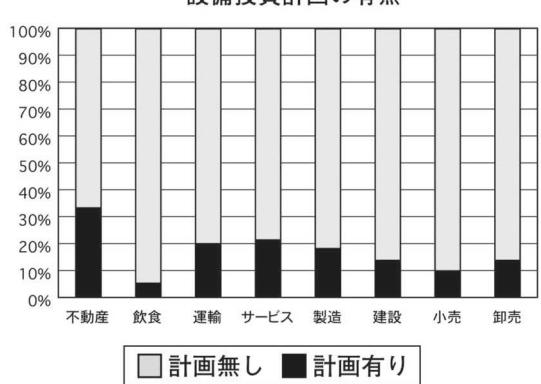
## 売上・受注DI値の推移



## 各DI値の推移



## 設備投資計画の有無



## 卸売業

回答企業29企業

### 概況

#### ～業況判断DI値大幅悪化～

今期の業況判断DI値は、前回調査比31.0ポイント低下の▲31.0と大幅悪化したが、前回調査予想値(▲48.3)を上回る結果となった。項目別では、売上・受注で48.2ポイント低下の▲24.1、売上数量が34.4ポイント低下の▲17.2、利益でも51.7ポイント低下の▲34.5と全項目で大幅悪化となった。

### 分野別の状況

#### ～総合的業況は大幅悪化で推移～

酒類等卸売業は、飲み会等自粛業種も徐々に再開しており、売上回復基調にあるが、もう少し時間を要する見通し。

食料品卸売業は、売上高はやや増加となったが、仕入価格や経費の増加により、利益圧迫し業況はやや悪化となった。

野菜・果実卸売業は、消費市場での流通量の多さから販売価格低下傾向にある。

衣料品卸売業は、冬期間の閑散期でもあり、売上・利益は減少した。

建設・建設資材卸売業は、仕入価格上昇するが、価格転嫁を図ることで売上増加し利益も確保でき、業況順調に推移した。

業種間格差や価格転嫁の成功度合いにもよるが、季節的要因(閑散期)により売上・利益減少しているところへ、諸経費高騰により利益圧迫し、業況大幅悪化した。



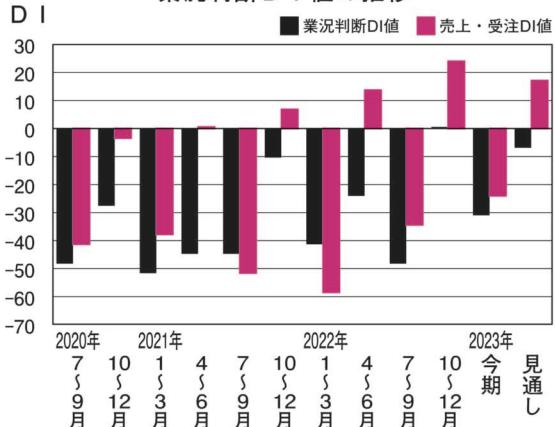
### 来期の見通し

#### ～業況判断DI値大幅改善の見通し～

来期の見通し業況判断DI値は、今回調査比24.1ポイント上昇の▲6.9と改善の見通しである。項目別では、売上・受注で41.3ポイント上昇の17.2、売上数量が41.3ポイント上昇の24.1、利益でも31.0ポイント上昇の▲3.5と全項目で大幅改善の見込みとなった。

仕入れ価格の高騰、経費の増加が継続して予想されるが、季節的イベントの開催に向けて期待感が大きく、業況は大幅改善見込みとなった。

### 業況判断DI値の推移



## 小売業

回答企業91企業

### 概況

#### ～業況判断DI値やや悪化～



今期の業況判断DI値は、前回調査比3.3ポイント低下の▲23.1とやや悪化し、前回調査予想値(▲38.5)を上回る結果となった。項目別では、売上・受注で2.2ポイント低下の▲11.0、売上数量が5.5ポイント低下の▲13.2、利益でも8.8ポイント低下の▲23.1と全項目でやや悪化となった。

業種間格差があるが、仕入価格高騰に対し価格転嫁に苦戦している業種が多い。依然として厳しい状況が継続している。

### 分野別の状況

#### ～総合的業況はやや悪化で推移～

食料品・酒類小売業は、新型コロナウイルス感染症の影響は少なく、来店客数の増加も見られるが、人件費の増加や原材料等の値上げにより利幅が減少し、厳しい状況が続いている。販売価格を据え置いたままで、価格転嫁が進まない状況にある。

漆器・墓石小売業は、幅広い年齢層に訴求する商品開発が課題となっている。

建設資材・農業機械小売は、冬期間でもあり受注件数が減少している中で、納品遅れ・仕入価格値上げなどの影響により業況はやや悪化した。

燃料等小売業は、原油価格高騰により販売価格の値上げを行い、売上は増加となったが、物価高に伴う経費増加により利益減少した。

家電小売業は、物価高騰による買い控えや商品単価当たりの利幅減少により、業況やや悪化している。

### 来期の見通し

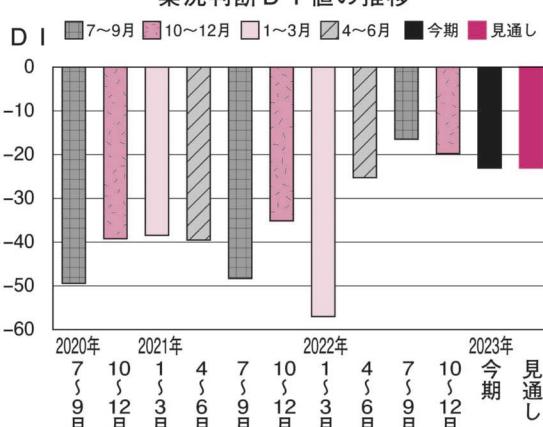
#### ～業況判断DI値横ばいの見通し～



来期の見通し業況判断DI値は、今回調査比0.0ポイントの横ばいで▲23.1の見通しである。項目別では、売上・受注で22.0ポイント上昇の11.0、売上数量が2.2ポイント上昇の11.0、利益でも6.6ポイント上昇の▲16.5と全項目で改善の見込みとなった。

各種イベント開催に対する期待感から横ばいの見通しとなつたが、来期についても、仕入価格のさらなる高騰が予想され、価格転嫁に苦慮する業種多く、依然として厳しい業況が継続する見込みとなった。

### 業況判断DI値の推移



## 建設業

回答企業58企業

## 概況

## ～業況判断DI値 大幅悪化～



今期の業況判断DI値は、前回調査比34.5ポイント低下の▲25.9と大幅悪化し、前回調査予想値(▲22.4)を下回る結果となった。項目別では、売上・受注で50.0ポイント低下の▲44.8、売上数量が48.3ポイント低下の▲44.8、利益でも36.3ポイント低下の▲39.7と全項目で悪化となった。

今期は冬期間の閑散期のため、受注数が減少している中で、原材料・燃料費の高騰や人員不足により大幅悪化となつた。

## 分野別の状況

## ～業種間格差はあるが業況悪化で推移～

土木工事業は、冬期間のため受注数少ないが、例年並みの売上が確保できた。ほぼ全ての材料費と燃料費の高騰で、利益は減少している。

建築工事業は、冬期間は受注工事少なく、例年と大きな変化は無いが、建材・燃料価格は高騰しているため業況は良くなかった。

電気工事業は、冬期間の受注数がないのに加え、資材高騰分を価格転嫁できないものもあり、利益減少した。

管工事業は、公共工事等受注減少し資材高騰により設備投資等を控える傾向があり、売上・利益減少した。

## 製造業

回答企業33企業

## 概況

## ～業況判断DI値 悪化で推移～



今期の業況判断DI値は、前回調査比27.3ポイント低下の▲36.4と悪化し、前回調査予想値(▲12.1)を下回る結果となった。項目別では、売上・受注で18.2ポイント低下の▲15.2、売上数量が21.2ポイント低下の▲24.2、利益でも33.3ポイント低下の▲33.3と全項目で悪化した。

原材料および燃料費の高騰が続いている中で、業種間格差があるが、既に小規模の価格転嫁が図られ、更なる価格転嫁を検討する必要がある。総合的業況は悪化で推移した。

## 分野別の状況

## ～総合的業況 悪化で推移～

食料品製造業は、原材料価格高騰により収益を圧迫しており、商品価格改定を行ったが、販売量減少し売上増加には繋がらなかった。更なる原価上昇に対し、追いつかない状況にある。

建築・建設用金属資材製造業は、冬期間の閑散期でもあり受注数減少傾向にあり売上も減少した。

衣料・縫製業は、縫製原材料も高騰しているが、価格転嫁に対応できており、売上は増加した。

鉄鋼加工製造業は、冬期間の閑散期でもあり受注数減少傾向にあり、原材料が依然として高値で推移していることから、業況悪化で推移した。

## 来期の見通し

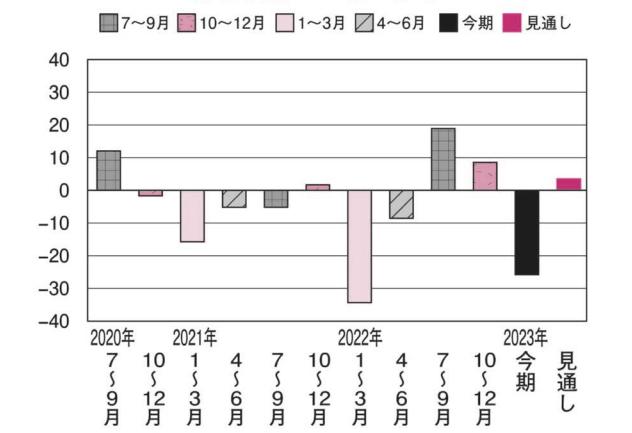


## ～業況判断DI値 全項目で改善の見通し～

来期の見通し業況判断DI値は、今回調査比29.4ポイント上昇の3.5と改善の見通しである。項目別では、売上・受注で53.4ポイント上昇の8.6、売上数量が53.4ポイント上昇の8.6、利益でも38.0ポイント上昇の▲1.7と全項目で改善の見込となつた。

冬期間に準備していた受注分が雪解けとともに動き出すことで、業況は改善で推移する見通しである。

## 業況判断DI値の推移



## サービス業

回答企業42企業

### 概況

～業況判断DI値 全項目で悪化～



今期の業況判断DI値は、前回調査比26.2ポイント低下の▲26.2と悪化し、前回調査予想値(▲35.7)を上回る結果となった。項目別では、売上・受注で38.1ポイント低下の▲23.8、売上数量が33.3ポイント低下の▲21.4、利益でも42.9ポイント低下の▲28.6と全項目で悪化となった。

新型コロナウイルス感染症の影響は落ち着きを見せ、業種間格差はあるが総合的業況悪化で推移した。

### 分野別の状況

～総合的業況は悪化で推移～

旅館・ホテル業は、予約数は増加傾向にあるが、冬期間の閑散期という事もあり売上は減少傾向で推移した。

理容・美容業は、客足が戻っては来ているものの、材料価格や燃料価格高騰の影響で業況は悪化している。

自動車整備・钣金業は、冬期間は販売車両減少するため売上減少したが、例年より事故車両修理台数が多かつたため修理部門の売上は増加した。

自動車教習所は、入校者数が増える時期であるが、少子化の影響により全体数が少なく売上が減少した。

農機具修理業は、農機具の入荷時期の遅延もあり、顧客との交渉も難しい状態が続いている。業況は悪化で推移した。

## 運輸業

回答企業10企業

### 概況

～業況判断DI値 横ばいで推移～



今期の業況判断DI値は、前回調査比0.0ポイントの30.0と横ばいで推移し、前回調査予想値(▲10.0)を上回る結果となった。項目別では、売上・受注で40.0ポイント低下の10.0、売上数量が40.0ポイント低下の10.0、利益でも40.0ポイント低下の▲20.0と項目別では大幅悪化となった。

業種間格差があるが、冬期間でもりんご輸送を中心に受注できており、総合的業況は良好に推移した。

### 分野別の状況

～業況良好に推移～

旅客運送業は、冬期間は閑散期であるが、国内ツアーや学校行事の再開により、売上確保できた。

貨物運送業は、燃料価格高騰に伴い運賃交渉を行った。提携先からの依頼が減少傾向にあるが、影響は軽微であった。

燃料価格高騰が利益を圧迫している中、価格転嫁に苦慮している状況が続いている。季節的要因のなかで受注は減少しているが、除雪作業等の公的機関の受注が継続したことで横ばいで推移した。

建設資材運送業は、取引先からの受注が少なく、燃料価格が上昇していることから、利益は減少となった。

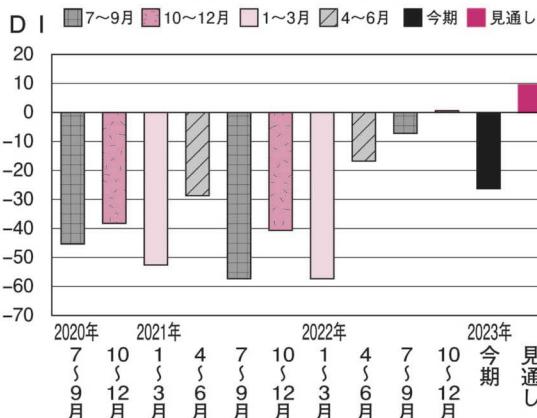
### 来期の見通し

～業況判断DI値 大幅改善の見通し～



来期の見通し業況判断DI値は、今回調査比35.7ポイント上昇の9.5と大幅改善の見通しである。項目別では、売上・受注で35.7ポイント上昇の11.9、売上数量が30.9ポイント上昇の9.5、利益でも33.4ポイント上昇の4.8と全項目で大幅改善の見通しとなった。季節的要因の影響もあるが、桜祭りやゴールデンウィーク等における各種イベント開催に対する期待感の高まりと、予約状況良好であることから、大幅改善する見通しである。

### 業況判断DI値の推移



### 来期の見通し

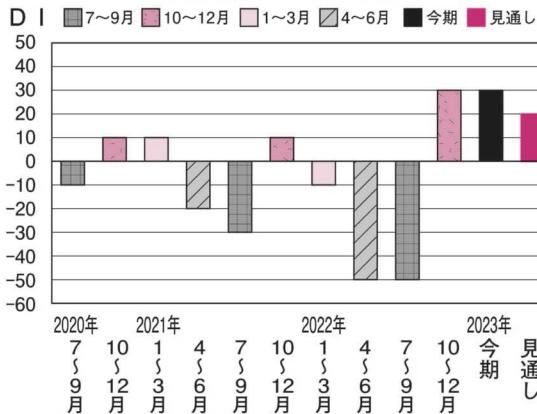
～業況判断DI値 やや悪化の見通し～



来期の見通し業況判断DI値は、今回調査比10.0ポイント低下の20.0とやや悪化の見通しである。項目別では、売上・受注で30.0ポイント上昇の40.0、売上数量が40.0ポイント上昇の50.0、利益でも30.0ポイント上昇の10.0と全項目で改善の見込みとなった。

燃料費以外の経費増加が著しく、利益確保の難しい状況が続く。価格転嫁できるかが課題となっている。

### 業況判断DI値の推移



## 飲食業

回答企業19企業

## 概況



## ～業況判断DI値 全項目で改善～

今期の業況判断DI値は、前回調査比26.3ポイント上昇の▲10.5と改善し、前回調査予想値(▲26.3)を上回る結果となった。項目別では、売上・受注で21.1ポイント上昇の31.6、売上数量が15.8ポイント上昇の26.3、利益でも31.6ポイント上昇の15.8と全項目で改善となった。

新型コロナウイルス感染症の影響が緩和され、小宴会・個人客はコロナ禍前に戻っている先もあり、業況は回復基調にある。仕入価格・光熱費等の上昇に伴う価格転嫁の実施状況により収益の格差が生じている。

## 来期の見通し



## ～総合的業況判断では改善の見通し～

来期の見通し業況判断DI値は、今回調査比21.0ポイント上昇の10.5と改善の見通しである。項目別では、売上・受注で15.8ポイント低下の15.8、売上数量が5.2ポイント低下の21.1、利益でも5.3ポイント低下の10.5と全項目で悪化の見込みとなった。

販売価格の値上げを検討しているが、仕入価格等の上昇に追いつかないうえ、値上げに伴う落ち込みを懸念している。項目別では悪化を見込んでいるが、新型コロナウイルス感染症の影響の緩和や各種イベント開催等に期待し、総合的業況判断では改善の見込みとなった。

## 不動産業

回答企業9企業

## 概況



## ～業況判断DI値 大幅改善で推移～

今期の業況判断DI値は、前回調査比33.3ポイント上昇の0.0と大幅改善し、前回調査予想値(▲55.6)を上回る結果となった。

項目別では、売上・受注で22.2ポイント上昇の22.2、売上数量が22.2ポイント上昇の11.1、利益では11.1ポイント上昇の0.0と全項目で改善となった。

新生活に向けて契約件数が増加しており、賃貸契約物件の動きが活発に推移している。中古物件へのお問い合わせも多く、総合的業況は大幅改善で推移した。

## 来期の見通し



## ～総合的業況 大幅改善の見通し～

来期の見通し業況判断DI値は、今回調査比33.3ポイント上昇で33.3と大幅改善の見通しである。項目別では売上・受注で11.1ポイント上昇の33.3、売上数量が11.1ポイント上昇の22.2、利益でも22.2ポイント上昇で22.2と全項目で改善の見込みとなった。

来期は、新年度のシーズンとなるため、入居相談が増加し、業況は良くなる見通し。総合的業況は大幅改善で推移すると見込んでいる。

## 調査要領

- 調査時期 2023年3月下旬
- 調査地域 当金庫営業区域7市町村(弘前市、黒石市、平川市、五所川原市、大鰐町、藤崎町、田舎館村)
- 調査方法 上記地域内291社から当金庫営業店の調査員による聞き取り調査。
- 分析方法 各質問事項で、変化なしとした回答部分を除いて、「増加(上昇)」「やや増加(やや上昇)」したとする回答と、「減少(下降)」「やや減少(やや下降)」したとする回答の構成比との差(判断D.I.)を中心に分析を行った。

